

教職大学院 NEWS

三重大学大学院教育学研究科 教職実践高度化専攻

第9号 H30.4月発行



三重大学教職大学院 2年目が始動!

平成30年4月、三重大学の教職大学院に、三重県教育委員会から派遣の現職教員10名、学部卒業者6名の計16名の大学院生を迎えることができました。1期生15名とあわせて総勢31名で、三重大学教職大学院の2年目がスタートしました。31名の院生が協働的な探究に取り組みながら、豊かな学びを展開していけるよう、引き続き、教員スタッフ一丸となってサポートしていきます。

【2期生紹介】

学校経営力開発コース

赤坂 珠子 (亀山市立井田川小学校)	学校での教育課題が複雑化、多様化する中で、これまでの経験に頼った対応だけでは、確かな学力を育成することができないのではないかと悩むことが増えてきました。そこで、しっかりとした理論を学び、そこに裏付けられた実践をすることが確かな学力を育成するために必要なことではないかと考え教職大学院に学びにきました。
大浦 亜紀 (松阪市立中部中学校)	自らの実践を振り返ると、今までの経験に基づいて考え、進めてきた場面が多い。これからの教育現場において、新たな取り組みを提案したり、若手教職員を育成したりするためには、もっと新しい知識や指導技術を身に付ける必要があると考えた。そして、新学習指導要領で期待されている学びを充実させていくために、効果的な指導方法や考え方を学びたい。
大西 恵美子 (松阪市立西黒部小学校)	教職大学院での様々な出会いを大切に、「学び」の楽しさを思う存分追い求めたいです。特に、2020年度に教科化される「小学校外国語」について学修を深めていきたいです。小学校から中学校英語学習へのスムーズな連携をめざし、効果的な指導のありかたを研究したいと考えています。
黒田 健太郎 (菰野町立八風中学校)	これまで教育について、まとまった勉強をしたことがありません。教職大学院での2年間をフルに活用して、しっかりとした教育の骨格を作っていきたいと思っています。送り出してくれた職場や町の負担以上のものを持って帰ることが出来るよう、頑張ります。ご指導よろしくお願いたします。
島田 敏行 (四日市市立西笹川中学校)	私が教職大学院に入学させていただいた目的は、通常学級における特別支援教育のあり方、具体的に何を大切にどのような取り組みを組織的に継続して取り組む必要があるのかを考え、それを実践するために入学しました。「基礎的環境整備」と「合理的配慮」の大切さをふまえ、脳科学の観点からも具体的にどうするべきかも考えたいと思います。卒業後は今後の学校運営や地域全体の教育のあり方に特別支援教育の考え方が反映されるように尽力したいと思っています。
田中 克哉 (鈴鹿市立長太小学校)	教職大学院では、様々な学校の実践や取り組みから学び合いと学力向上について研究したいと考えています。また、学校全体で取り組む授業改善について学びたいとも考えています。二年間精一杯学び、日々の実践に活かしたいと思っています。
西村 佳子 (朝日町立朝日小学校)	現職教員という立場で、長期派遣にて2年間研修する機会を得ました。異校種の先生や学部新卒者の方々等、様々な世代が交わる中での学びが貴重な経験になると思います。そして、高度な専門性を身につけ、理論的思考力を基盤とした実践的能力を開発し、現場に還元していきたいと考えています。
林 敬一郎 (津市立東橋内中学校)	「主体的・対話的で深い学び」を達成するための様々な授業手法について学び、実践校などの視察を通して、自らの知識や教育力を高めることにとどまらず、津市の教育の向上のために頑張ります!! よろしくお願いたします!
前川 友彦 (県立久居高等学校)	教職大学院では、たくさんの出会いを大切に、教育についてしっかりと勉強したいと思います。とくに高校数学におけるアクティブラーニングについて研究します。楽しく、おもしろく、役に立つ授業を目指してがんばります。
三浦 早矢加 (県立四日市工業高等学校)	人は老いたとき、やった後悔よりやらなかった後悔の方が大きいそうです。現在、教員生活8年目。6年次研修や免許更新を経て、学びたい気持ちが高まりました。「数学(勉強)やってなんになるの?」といった生徒の問いに授業で答えるべく、i(虚数)を切り口として、実生活と数学の結び付け方を研究します。

教育実践力開発コース

稲垣 知大 (中学校理科志望)	教職大学院では、主体的に学ぶ意欲を高める授業実践をテーマを中心に学びを深める予定です。また、現場経験豊富な先生方と様々な視点から意見交換を行うことで、三重県の教育現場を想定した実践的な学びができると考えています。これから始まる2年間で新たな見方・考え方を発見できることが非常に楽しみです。
大下 竜平 (小学校志望)	教職大学院では、道徳の授業構築について学んでいきたいです。特に、道徳授業の発問づくりについて学びたいので、道徳授業を研究するだけでなく、他教科の授業からも発問について研究していきたいです。この二年間でいろんな人達と接して、幅広い知識や経験を身につけたいです。
長谷川 雄也 (中学校理科志望)	主体的・対話的で深い学びを実現するICTを用いた授業実践を行える授業力を身につけるために三重大学教職大学院に進学しました。ICTを活用した協働学習を取り入れた授業だけでなく、地域の課題や生徒指導、教育相談など幅広く学びたいと思います。また、2年目の長期実習では1年目に学んだ理論を元に授業実践を繰り返したいです。そして毎回の授業で自分に足りないことを確認し、創意工夫を繰り返すことで理想とする授業を行えるよう学んでいきたいと思っています。
松葉 光平 (高等学校地歴志望)	学習指導面では生徒に対し社会科・地理を通して三重県の魅力を発信できるような授業の開発を行います。また学習指導の効果を向上させるための学級経営・リーダー論・カウンセリングの理論と実践について学んでいきます。将来は学んだことを活かし、三重県の教育に幅広く貢献していきたいです。
松葉 憲彦 (小学校志望)	私が教職大学院を志望した動機は、英語の授業づくりをより学びたいと思ったからです。私は副免許で中学校と高校の英語の免許を持っていることもあり、英語に興味があります。また、新学習指導要領で小学校英語の教科化もあり、高学年の英語の授業を作るうえで、どうしたらより主体的な授業ができるのかを学び、実践する力を得たいと思います。現場に出た後に、児童が前のめりに授業を受け、背もたれのいらぬ授業をすることができるように、これからの二年間頑張っていきたいと思っています。
渡辺 瑛大 (小学校志望)	教員としての実践力を高めることと、より実践的な授業づくりの知識・技能を深く学ぶために教職大学院に進学しました。これから新しい環境の中で様々な知識を貪欲に吸収していき、実践を繰り返すことで、自身を更に高めていきたいです。

2期生学修テーマ発表会 ～4月12日(木)1期生と合同で～

木曜午後の「地域の教育課題解決演習」の1回目の授業で、初めて、1期生、2期生、教員が一堂に会しました。自己紹介の後、1期生のプロデュースによる「2期生の学修テーマ発表会」が行われました。発表時間は1人7分(プレゼン4分・質疑応答3分)。発表は、パワー・ポイントを使用したり、自身の巧みな話術を駆使したりするなど、とても工夫を凝らしたもので、それぞれの院生の個性が豊かに表現されてい



ました。質疑応答では、1期生からも積極的に質問等が出されるなど、教職大学院ならではの、深め合う、学び合う姿が随所に見られました。この発表会での質疑を受けて、これから2期生は、さらに自身の学修テーマについて深く考え、課題の再構築や探求プロセスの確立を進めていくことでしょう。これからは本当に楽しみになる、充実した発表会でした。



ました。質疑応答では、1期生からも積極的に質問等

が出されるなど、教職大学院ならではの、深め合う、学び合う姿が随所に見られました。この発表会での質疑を受けて、これから2期生は、さらに自身の学修テーマについて深く考え、課題の再構築や探求プロセスの確立を進めていくことでしょう。これからは本当に楽しみになる、充実した発表会でした。

編集・発行 三重大学大学院教育学研究科 教職実践高度化専攻(教職大学院) 広報担当

☎ 059-231-9319 (学務担当)

〒 514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577

URL <http://mkd.edu.mie-u.ac.jp> (教職大学院専用 HP)

✉ info-mkd@edu.mie-u.ac.jp